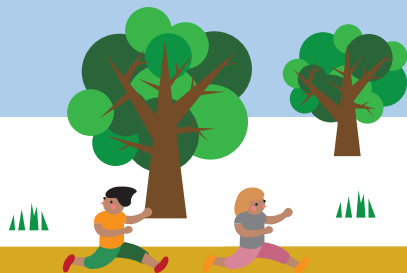


Community Road Empowerment

道普請人

NPO法人 道普請人 (Michibushinbito)

<http://coreroad.org/>



15th

ANNIVERSARY
STORY



自分達の道は、
自分達で直す。





想像してみてください

あなたの住む村に電車もバスもなく、町の中心部に行くには、この一本の農道しかありません。しかし雨季になると、その道の至る所には大きな穴とぬかるみ。車やトラックがはまってしまったり、水汲み帰りの子どもたちが転倒してしまったり…。学校、病院、市場も、この農道の向こう。病人や妊婦を乗せたバイクも、重たい農作物を積んだ農家の自転車も、この農道を通らなければなりません。また、道が悪いと村に人が来てくれません。作物の仲買人のトラックがこの村に来ることを拒んだり…悪路が貧困からの脱却を遅らせているのです。

私達「道普請人」の活動である「現地の人と行う道直し」は、その先に思いがけない喜びが待っていたりします。私達はいつもその瞬間に出会える時を思い浮かべながら、新しい村に出かけます。



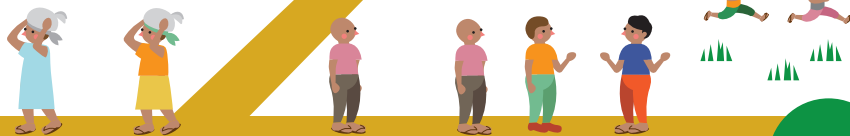
「自分達の道は自分達で直せる」という意識を広げたい

途上国の農村の、ほとんどの道は舗装されていません。悪路に長年悩まされている村が世界にはまだまだ沢山あります…。

京都大学木村亮教授(本NPO法人理事長)は1993年に専門家としてケニアに赴任して以来、工学者として開発途上国の人々の幸せに貢献する方法を考えてきました。そして、10年間で15回にわたる現地訪問や活動を通して辿りついたアイデアが、「土のう」工法でした。その土地で集められるものを材料として、簡単な技術で農道やため池などを整備する「工夫の1つ」です。土のうの技術を現地住民へ普及する事によって、彼ら自身で彼らの生活を守れるようになり、「自分達の道は自分達で直せる」という、自信とやる気生まれます。そういった、自分達の力で前へ進むもうとする気持ちを引き起こさせる事こそが、私達の役目であり、使命であると思っています。



木村 亮(本NPO法人理事長)



土のうを使った修繕方法

土のうとは、プラスチックの繊維で編まれた袋（途上国ではポリプロピレン製のものが多い）に土砂を詰め口部を紐で縛ったものです。土のうを積むことで、水や土砂の流入を防ぐことができることから、水害時の応急対策や土木工事全般に用いられます。そんな土のうを地面に均等に並べて人力で締固めると、車の重さを支えるぐらいに硬くなります※。土のうを基盤とする雨風に負けない道路を、村から村へと繋げていくのです。



土のう袋

Before (施工前)



両側に畑が広がる農道。車が通ると路面には凹凸ができ、そこに雨水がたまります。土に含まれる粘土分が多いと、ぬかるみます。

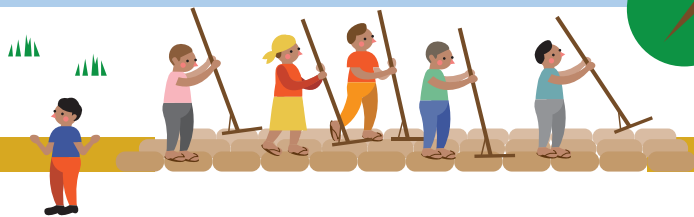
After (施工後)



土のうでしっかり固め、その上を土で覆った道は、簡単にはへこみません。村人達が道を直した結果、通行が容易になります。

※「土のう」が大きな耐力を持つ事は、名古屋工業大学・松岡 元名誉教授の研究により、理論的に明らかにされています。（松岡 元：地盤工学の新しいアプローチ-構成式・試験方法・補強法-、京都大学学術出版会、2003.）。

私たちの、現場作業



道直しに使う道具や材料は、現地
で調達できるものを使います。村人達
は普段使い慣れている道具を使うの
で、仕事を覚えるのも早い!そして、何
より信じられないくらい力持ちなので、
どんどん土を掘り、どんどん土のうを運
び、どんどんコンパクター(土を突き固
める為の道具)で土を固めます。すべ
て手動ですが、あっという間に作業が
進み、道がよくなっていきます。

息切らしながらも、汗をかきなが
らでも、いつも現場は彼らのおしゃべり
と笑い声でいっぱい。ラジオを現場に
持って行くと、そこから流れる音楽で
作業しながら踊り出す人も…現場で彼
らと共に働くと、彼らの底なしの明る
さや、たくましさに私達はいつも励ま
されます。

彼らに道直しの技術を教えると、そ
のお返しに彼らが私達に教えてくれる
事は、何事にも代えがたい、何よりも
心を豊かにしてくれるものです。

村人達に技術を
指導する福林理事。

1

問題となる道路の様子を調査します。



施工方法を検討する
渡辺専門家と千葉職員

岩村職員
(アフリカ統括)

2

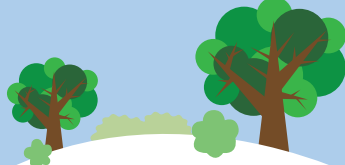
凹みに溜まっている水や泥を、
かき出します。



3

土のうがきちんと収まるように
凹んだ箇所を整形します。
メジャーが無い時は、
現地にあるものを有効活用





4

土を入れた土のう袋の口を
しっかり紐で縛り、並べます。



土の量は計量して、
土のう袋に入れます。



女性が重たいものを持つ時、
必ずといっていいほど
頭の上に乗せて運びます。

女性達も
男性に負けじと
とてもパワフル!!



5

大事なのはコンパクション!!

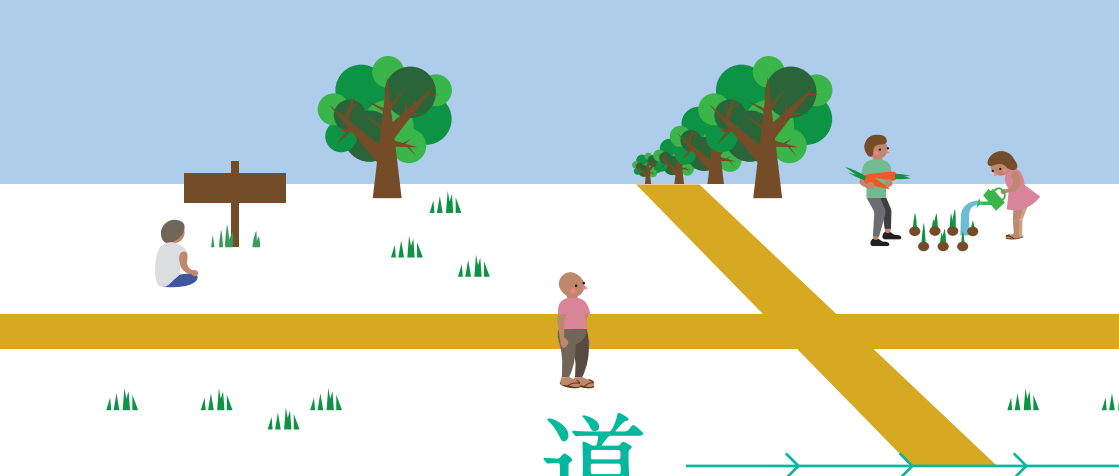
土を突き固めて強度を高めて行きます。
ひとつの土のうにつき20回、この手作りコンパクターで
土のうを叩きます。すると、締め固められ
コンクリートのようになくなります。



彼らの手にかかると、
重たいコンパクターも
ヒヨヒヨ持ち上げます。



訓練生とランチ中の
岩村職員(アフリカ統括)



道直しと暮らしの変化

6



土のうに土を被せて、
さらにしっかりコンパクション!!
これで丈夫な道が出来上がります。

7

完成をみんなで喜びます!



道直し後の開通式の様子

「土のう」は“Do-nou”
世界共通語に!

サブサハラアフリカの活動国では、現
地道路行政と協力して、工法のマニ
ュアル化や職業訓練校でのカリキュラ
ム化を推進しています。現地の文書には
「Do-nou technology」と明記されて
います。





人びとの暮らしはどう変わった？



ウガンダ **Mr. Kasirivu Moses**の場合

道直しの後は作物を腐らせずに市場に出荷できるようになり、収入が向上しました。仕事を手伝っていた子どもは、現在学校に通っています。今は、子どもたち全員を大学まで行かせるという夢を持って、日々仕事に励んでいます。



ケニア **Mr. Simon Njuguna**の場合

道直し研修後に、訓練生に起業支援サポートも行っています。ケニアではこれまでに、訓練生によって建設会社が約40社設立されました。

ルワンダ・ウガンダでも約30の訓練生グループが道路維持管理事業を受注しています。道普請人の研修に参加した若者は、今も地域に新たな雇用を生み出しています。



ケニア・ナイロビにて建設会社を
経営するサイモン氏



ケニア **Mr. Emanuel Kandire**の場合

仕事が見つからず、将来に希望すら持てませんでした。そんな時、道直しの研修に参加できたことがきっかけとなり、スラムに住むユースグループの仲間と小さな建設会社を設立しました。今では、国から道路工事を受注できるまでになりました。道直しが僕の人生を変えてくれたのです。



くらしの豊かさに向けて

道路条件を踏まえて、最適と考える工法を、現場で人々と一緒に考え実践しています。

また、日本政府や民間団体からの助成の獲得や、国連機関や他分野で活動するNGO等との連携が進んでいます。

急こう配部の道直し



タンザニア：施工前



タンザニア：施工後



タンザニア：施工中



タンザニアの南端、モザンビークとの国境近くの村で、急こう配部の道路整備を行いました。路面の補強が必要なため、約530mのコンクリート舗装（幅2.5m）を人力で行いました。在タンザニア日本大使館が実施する「草の根・人間の安全保障無償資金協力」の助成を受けたネワラ県より、委託を受けて設計、積算、施工管理を行いました。

河川横断部の道直し



ミャンマー：
施工前



ミャンマー：
施工後



ミャンマー：
施工の様子



ミャンマー：
現地スタッフを指導する田中専門家

ミャンマー、エーヤワディ管区のカンター村内にて、歩行者とバイク用の鉄筋コンクリート製橋を架設しました。航路を確保しつつ横断を可能にする必要があり、橋中央部が高くなりました。日本のシニアエンジニアが参画し、設計と施工指導を行いました。無事に施工を終え、人々の通行に役立っています。2014年度外務省NGO連携無償資金協力の助成を得て、建設されました。



広がる活動



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



若者雇用促進



ウガンダ:
道直し研修風景



ルワンダ:
道直し完了後の達成感に満ちた若者たち

アフリカの農村部では、土地を持たない若者の失業が深刻な問題で、農業以外の雇用の機会が求められています。農村部の若者たちが地方自治体から道直しの事業を受注できるよう、道直し訓練を行っています。事業地各地では、道直し会社や道直し組合が設立され、若者たちが仕事を得ています。また、道普請人の道直し訓練を通じて集まった若者たちは結束を深め、養豚や養鶏などの事業も組合として起業した例も数多くあります。

事業例

ケニア 外務省NGO連携無償資金協力事業(2011年11月~2017年12月)

ウガンダ 外務省NGO連携無償資金協力事業(2019年2月~2022年1月)

ルワンダ 外務省NGO連携無償資金協力事業(2018年3月~2024年3月(実施中))

女性収入向上



ブルキナファソ:
都市部で女性が中心となり行う道直し



ブルキナファソ:
女性による丁寧で力強い締りめ

ブルキナファソでは、女性グループが道直しに積極的に参加します。彼女たちの切実な願いは、家族のくらしの安定化です。道路整備手法のみならず、一日の作業の対価として得られる現金収入を元手とした起業や、金融サービスへのアクセスと活用に向けた研修を行っています。

事業例

ブルキナファソ 日本国際協力財団(2017年4月~2018年3月)

ブルキナファソ 外務省NGO連携無償資金協力事業
(2019年12月~2021年6月)



私達の活動は2022年9月末時点で

整備した全道路延長 **231,373m**

土のう敷設により整備した道路延長 **78,681m**

道直しに参加した住民の数 **22,341人**

活動してきた国数 **30カ国**



他にも様々な形で、道普請人の活動は広がりを見せています。

[最新情報はこちら](#)

育苗・植林



ウガンダ：
育苗に挑戦、種蒔く小学生



ルワンダ：
住民参加の植林作業

アフリカでも、大問題になっている森林破壊。違法伐採や農地開拓が続き、ケニアでの天然森林面積は国土のわずか7%。現状を打開するため、コミュニティ参加型の育苗場の設置や植林を進めています。ケニアではこれまでに約120万本の木を植えました。

事業例

- ケニア トヨタ環境活動助成プログラム(2011年1月~2019年12月)
- ケニア 経団連自然保護基金(2018年4月~2021年3月)
- ケニア UNDP補正予算(2022年9月~2023年3月)
- ウガンダ TOTO水環境基金(2019年4月~2022年3月)
- マダガスカル ILO補正予算(2022年9月~2023年4月)

水資源



ウガンダ：
雨水集水タンクの設置に喜ぶ小学生



エチオピア：
土のうを用いたため池建設

安全な水へのアクセス率は非常に低く、現地行政は井戸やダム建設で手一杯です。安全な水へのアクセスを高めるため、住民が労働集約で実施可能な、雨樋を利用した給水タンクの設置や、ため池の建設を進めています。

事業例

- ケニア UN-Habitat日本政府補正予算(2016年10月~2017年6月)
- ケニア TOTO水環境基金(2018年4月~2019年3月)
- ウガンダ TOTO水環境基金(2019年4月~2022年3月)
- エチオピア ILO日本政府補正予算(2022年9月~2023年4月)



エチオピア：
丁張について説明する田川専門家

「道普請」のころから始まった 「人」の輪



「道普請人」共同設立者 喜田 清 氏

本団体系長の木村教授と共同設立者で元副理事長の喜田氏は、1993年にケニアで出会いました。喜田氏は1988年から国際協力機構（JICA）の長期専門家として赴任しており、その活動は2008年まで続きました。その後、道普請人の副理事長兼ケニア事務所代表に就任し、国際NGOとしての最前線で2017年まで活躍いただきました。身振り手振りを交えた軽快な話術をスワヒリ語と英語で展開し、どんな相手でも笑顔にし打ち解けていく魅力がありました。

喜田氏が経験された様々な「大変」物語や「おもしろ」物語の一部が、生前に喜田氏が書かれていた「サバンナの風」ブログに残されています。15周年に際し、その礎となった喜田氏の貢献を思い起こすとともに、さらに「道普請」の「人」の輪を広げていこうと思いを新たにしています。



木村理事長(左)と喜田氏(右)
(ケニアで初めて土の工法を实践した現場にて)



2009年 現ケニア大統領ルト氏
(当時は農業大臣)との写真

国境や世代を超えて広がる道普請「人」



ケニア、ウガンダ、ルワンダに
現地事務所を設置



シニアエンジニアの活躍



高校生から大学院生までの
インターンを受け入れ

受賞歴

- 土木学会100周年事業：市民普請大賞（2014年）
- 京都オムロン地域協力基金：2022年度京都ヒューマン賞
- 第5回JAPANコンストラクション国際賞 国土交通大臣表彰（2022年）

500円で途上国の農道を1m直せます。

これまでの実績から、農道(一車線)を1m直すのに平均して1コイン、500円で直すことができます。この費用は主に土のう袋や土代となっています。道が直るだけでなく、現地住民へやる気、自信を与えることができます。あなたも「道普請人(みちぶしんびと)」となりませんか。

私たちの活動を知ってください。そして応援をお願いします

年会費(いずれも一口以上お願いします)

	個人会員(一口)	団体会員(一口)
正会員 総会での議決権を有します。	5,000円	50,000円
賛助会員 総会での議決権を有しません。	3,000円	30,000円

※寄付も受け付けています。

納入方法：クレジット決済サービス、郵便振替、または銀行振込でお送りください。

●クレジットカード決済

CANPAN決済サービス(日本財団運営)、道普請人のサイト(<http://kessai.canpan.info/org/core/>)へアクセスください。メールアドレス、氏名等を登録する必要があります。ページの案内に従い、手続きください。

●郵便振替 口座番号：00950-3-301893 / 加入者名：特定非営利活動法人 道普請人

●銀行振込

みずほ銀行 出町支店 普通口座

口座番号：1091406

口座名：特定非営利活動法人 道普請人

(トクテイヒエイリカツドウホウジン ミチブシンビト)

滋賀銀行 桂支店 普通口座

口座番号：424162

口座名：特定非営利活動法人 道普請人

(トクテイヒエイリカツドウホウジン ミチブシンビト)

入会をお考えの方へ

①お名前(ふりがな)

②郵便番号/ご住所

③電話番号

④E-mailアドレスを、

右記メールアドレス、またはFaxにてお送りください。

入会申込み用冊子、郵便振替用紙をお送りします。

問合せ先

NPO法人 道普請人事務局・福林 良典

〒600-8213 京都市下京区東塩小路向畑町20-13

プレサンス京都駅前 502号

Tel & Fax : **075-343-7244**

E-mail : **info@coreroad.org**

URL : **http://coreroad.org/**

京都市より「運営組織及び事業活動が適正であり公益の増進に資する」と認定を受けています。

賛助会員費・寄付金は税額控除対象になります。

皆様の温かいご支援に対し、現地の人々と私たち道普請人より、心より感謝申し上げます。



発行元：NPO法人 道普請人(みちぶしんびと)

制作：株式会社ブラウン